一般社団法人 **日本リウマチ学会**

第 20 回定時社員(会員)総会資料

第１号議案	2022 年度事業報告書承認の件
第２号議案	2022 年度決算報告書承認の件
第３号議案	2023 年度予算案承認の件
第４号議案	規則および細則の改定の件
第４号の１議案	専門医制度規則の改定案
第４号の２議案	事業活動の利益相反に関する指針の細則の改定案
第５号議案	会員の懲罰の件
第６号議案	第 11 期役員（理事）選任の件
第７号議案	新評議員の選出承認の件
第８号議案	名誉会員・功労会員の選任承認の件
第９号議案	第 70 回学会長の選出の件
報 告 事 項	2023 年度学会賞・奨励賞の受賞者について

2023 年 4 月 24 日

一般社団法人日本リウマチ学会

Ⅱ.事 業（会務）報 告

1. 会員の状況

2023 年 3 月 1 日現在の社員（会員）総数は 9,853 名で会員の種別･増減内訳は下記のとおりである。　注：（　）内は，2022 年 3 月 1 日現在の会員数を表す。

会員総数	9,853 名	(9,850 名)	+3 名
種別内訳：			
一般会員	8,248 名	(8,264 名)	−16 名
評 議 員	1,019 名	(1,021 名)	−2 名
名誉会員	72 名	(68 名)	［国内 45 名(41 名)　国外 27 名(27 名)］
功労会員	208 名	(192 名)	＋16 名
購読会員	306 名	(305 名)	＋1 名

年間会員増減：

(2022 年 3 月 1 日～2023 年 2 月 28 日)

㊗ 新入会	347 名	(350 名)	−3 名
㊗ 再入会	4 名	(2 名)	+2 名
△ 退会者	348 名	(339 名)	+9 名

（定款第 9 条第 1 号希望退会者 236 名，同条第 2 号による退会者 112 名）

2. 2022 年度事業報告

１）総会･学術集会

第 66 回日本リウマチ学会総会･学術集会　会長　田中 栄

現地・ライブ配信	2022 年 4 月 25 日　～ 4 月 27 日
オンデマンド配信	4 月 25 日　～ 5 月 31 日
参加者	7,312 名（有料参加者：7,199 名）

２）支部学術集会

第 32 回北海道･東北支部集会	9 月 23,24 日	会長	髙橋裕樹
第 32 回関東支部集会	12 月 10,11 日	会長	針谷正祥
第 33 回中部支部集会	9 月 2,3 日	会長	佐藤正夫
第 31 回近畿支部集会	9 月 3,4 日	会長(代行)	西本憲弘
第 33 回中国･四国支部集会	12 月 2,3 日	会長	田中　浩
第 63 回九州･沖縄支部集会	3 月 12,13 日	会長	井田弘明
第 64 回九州･沖縄支部集会	9 月 3,4 日	会長	石井宏治

３）理事会

2022 年度定例理事会を 5 回開催した。主要審議事項は次のとおり。

第 1 回理事会（4 月 24 日日曜）

定例評議員会・総会承認事項の審議（事業報告，決算・監査報告，予算審議，名誉会員・功労会員・評議員の選任，第 69 回学会長選出），第 66 回学術集会の実施概要，機構認定専門医への移行措置，対象者，研修年限，新専門医制度での研修開始における手続き，機構専門医の単位取得，情報共有ルール，男女若手共同参画奨励賞，研究助成概要，将来構想委員会での検討事項，SR 勉強会，RA 超音波研修会の WEB 研修会等

第 2 回理事会（7 月 10 日日曜）

第 66 回学術集会会計，第 67 回学術集会予算およびプログラム，選挙管理委員会の発足，ＭＲで発生した事案と懲罰，単位管理システムの導入，診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラムの採択者，JCR フロンティア研究者助成プログラム，支部規則の改定，ブロダルマブの JCR-JDA 合同検討委員会の設置，不明熱に対する FDG-PET/CT 検査の保険適用，オゾラリズマブの在宅自己注射の要望等

第 3 回理事会（8 月 28 日日曜）

第 67 回予算およびプログラム，2021 年度専門医試験結果，2022 年度教育施設（新規･継続）の認定，APLAR 学術集会分配金の使途，次世代基礎研究推進プログラム研究助成，D2TRA を含む難治性リウマチ性疾患に対する研究推進プログラム採択者，各支部学術集会予算，倫理委員会通達事項，サブスペシャリティ領域のシステム登録に関する機構への申し入れ等

第 4 回理事会（10 月 23 日日曜）

第 66 回学術集会会計報告，第 67 回学術集会予算/プログラム，学術集会運営業務委託先と 2027 年学術集会会場，評議員の倫理講習受講，Embargo policy，リウマチ用語集の改訂，APLAR2022 トラベルグラント受賞者，事業活動の利益相反に関する指針の改訂，男女若手共同参画奨励賞規約の改訂，登録ソノグラファーの新規登録と更新，高齢発症 RA の病因・病態・診断に関する研究助成の公募，RA における HCQ 全国使用実態調査，メディカルノートとの連携，手引きおよびガイドの改訂，膠原病・リウマチ内科領域研修プログラム申請等

第 5 回理事会（2 月 5 日日曜）

第 67 回学術集会（予算/プログラム/ハイブリッド開催詳細），第 70 回(2026 年度)学会長推薦，　2022 年度専門医と指導医(新規・更新)の認定/新専門医制度の改定，JCR2023 Excellent Abstract Award/Travel Award 受賞者，次世代基礎研究推進プログラム研究助成採択者改定，2022 年度決算及び 2023 年度予算案，新名誉会員/新功労会員/新評議員の選出，MTX 使用と診療の手引 2023，メディカルスタッフ向け手引き・患者向け支援ブック，高齢発症関節リウマチに関する専門医アンケートの実施，令和 6 年度診療報酬改定等

４）学会誌

(1) 学会誌 Modern Rheumatology (MR)を年 6 回定期刊行，およびオンライン版 MR Supplement（学術集会英文抄録集）を年 1 回刊行した。

(2) 編集委員 12 名を含む Transmitting Editor 合計 35 名で電子投稿査読システム Editorial Manager を活用。投稿論文の公正かつ速やかな査読行程に努め，医学倫理に則り掲載論文の質の向上に努めた。

(3) 2021 年の Impact Factor（IF）は 2.622(2020 年は 3.023)，5 年 IF は 2.622（2020 年は 2.676)であった。

(4) 2022 年 5 月末に受け付けた論文の査読過程において発生した査読者の守秘義務違反事案に対し，臨時の編集委員会を開催し，誠実かつ迅速な対応につとめた。

(5) Modern Rheumatology Case Reports(MRCR)は編集委員 10 名を含む Transmitting Editor 合計 21 名で構成。2022 年 7 月に MRCR 6-2，2023 年 1 月に MRCR 7-1 号を発行，それぞれ 35 編，70 編の論文を掲載し，創刊からこれまでに 400 編以上の論文を出版している。

５）専門医制度

(1) 膠原病・リウマチ内科領域整備基準に準拠したプログラムの申請受付けを開始し，膠原病・リウマチ内科領域専門医検討委員会でで審査を行った。結果，246 施設からのプログラムを日本専門医機構へ申請した。申請したプログラムは全て機構で認定され，2022 年 4 月からの膠原病・リウマチ内科研修が認められている。

(2) プログラム申請した基幹施設に専攻医名簿の提出を求め，専攻医症例登録システム（リウマチ版 J-OSLER）の稼働に向けた準備を進めた。

(3) 2022 年度認定の学会認定のリウマチ専門医教育施設として，新規 15 施設，更新 222 施設を認定した。2022 年 9 月 1 日時点での日本リウマチ学会認定教育施設は 613 施設（前年比+6 施設）となった。

(4) 2022 年 1 月に予定していた第 35 回リウマチ専門医資格認定試験は，COVID-19 の影響を鑑み 6 月に延期し，Computer Based Training （CBT）方式で実施した。受験者は 202 名で合格者は 164 名（合格率 81.2%）であった。専門医認定日は延期となったことを考慮し 2022 年 3 月 1 日としている。

(5) 第 36 回リウマチ専門医資格認定試験は予定通り 1 月に実施。受験者は 142 名で合格者は 118 名（合格率 83.1%）であった。受験可能な有資格者は変わらないが，新専門医制度による研修が開始されたことで受験資格の有無が判然としない専攻医が少なからずいたことが受験者の減少につながったとみられる。

(6) 2022 年 3 月 1 日付けで 専門医・指導医の資格更新の認定を行った。リウマチ専門医は 5,199 名(前年比＋223 名)，指導医は 2,080 名(同+122 名)である。特に指導医は 2016 年度の規則改定以降着実に増加している。

(7) リウマチ専門医研修カリキュラムは，「膠原病・リウマチ内科領域研修整備基準」に合わせ適宜修正を加えている。

６）国際化の推進と若手の育成

(1) JCR2022（横浜）で ACR session「Translational Research Programs to Define

Mechanisms of Complex Inflammatory Diseases」, EULAR session「Innovations in Arthritis - New frontiers of Rheumatology?」を開催し，それぞれ2名と4名の先生をお招きしてご講演いただいた。国際コンカレントワークショップは，内容別にセッションを振分け，英語音声付きのスライド発表とした。

(2) 海外演者を対象とした「Travel Award」を「Overseas Award」に変更して募集し，5名の受賞者を選出した。

(3) JCR会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞（ICW Excellent Abstract Award）は，対象演題103演題から28演題を選出した。

(4) 「JCR-EULAR若手リウマチ医トレーニングプログラム2022」を企画し，長期プログラム1名，短期1名を選出した。

(5) APLAR 2022（香港）に演題投稿した45歳未満のJCR会員の中から国際委員会での審査により15名を選出し，受賞者へは「APLAR2022 Excellent Abstract Award on JCR」として賞状と賞金が贈られた。

(6) 7月28日（木）～30日（土）にJCR国際育成セミナー2022（JCR International School 2022）をハイブリッドで開催した。

(7) 11月10～14日に開催されたACR2022期間中にJCR/ACRジョイントセッション「Trans-omics Dissection of Gene Regulation in Immune-mediated Diseases」を開催し3名にご講演いただいた。

７）教育研修会等の開催

(1) 全国規模の教育研修会として，4月24日にアニュアルコースレクチャーをハイブリッドで開催しオンデマンドで配信した。また8月21日に東京，12月4日に大阪で全国中央教育研修会を開催した。

(2) 第9回ベーシックリサーチカンファレンスを11月18日，19日にくまもと県民交流館パレア(熊本市)で開催した。

(3) 関節超音波検査初級講習会を1月22日にオンライン(Zoom)形式で開催した。登録ソノグラファーは2022年度に46名を新規登録し，96名の資格更新を行った。

(4) 臨床研究合宿を1月27～29日の3日間，クロスウェーブ府中で開催した。

(5) 「2018年度GSK医学教育事業助成」による「AI技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を6月26日，9月25日の2回，東京と大阪でそれぞれハイブリッドで開催した。

８）研究助成事業

(1) 厚生労働省より「アレルギー情報センター事業」の付託を受け，保健，福祉関係者および医療従事者と対象とした「リウマチ相談員養成研修会」を12月4日に大阪で開催した。

(2) 「D2TRAを含む難治性リウマチ性疾患に対する研究推進プログラム」を公募し，応募課題42題から10題を選出し研究助成金を支弁した。

(3) Novartis Pharma Grants for Basic Research 2022の助成により，リウマチ学，および関連する生命医科学の新展開を切り拓く次世代のリーダーに，その研究の発展を促すことを目的とする「JCR次世代基礎研究推進プログラム研究助

成」を募集し，応募された 13 の研究課題から 3 題を選出した。

(4) 旭化成ファーマ株式会社の助成により「JCR フロンティア研究者助成プログラム」を新たに開始。2022 年度は「高齢発症 RA の病因・病態・診断に関する研究ー」をテーマに公募した。

9）COVID-19 に対する対応

(1) 2020 年 2 月より，COVID-19 に関する情報を随時 HP に掲載した。21 年 1 月からはワクチンに関する情報を掲載し，「COVID-19 ワクチン接種に関する JCR の見解」のほか，国内外で発出されたワクチンを含む新たな知見や情報，また治療薬に関する情報を学会ホームページに掲載した。

(2) 情報発信と並行し，堀内孝彦対策本部長を中心に COVID-19 を生じたリウマチ性疾患患者を対象に臨床情報を収集してデータベース化し，病態，重症化リスク因子，予後因子などについて観察研究を行うことを目的とした「リウマチ性疾患患者に生じた COVID-19 に関する研究」を進めた。本年 3 月時点で 789 例のデータが登録されている。

(3) 新たに設置した COVID-19 ワクチン調査対策委員会では，ワクチン接種者の被験者を登録し，副反応の発現率と接種後のリウマチ性疾患の活動性の変化を観察。また，免疫抑制療法中のリウマチ性疾患患者における SARS-CoV2 ワクチン接種による抗体誘導性についての前向きコホート研究を進めた。

３．2023 年度事業案

１） 総会･学術集会

(1) 田中良哉会長のもと，2023 年 4 月 24 日(月)～26 日(水)に第 67 回日本リウマチ学会総会･学術集会を福岡コンベンションセンターで開催する。

(2) 高木理彰会長のもと，第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会（2024 年 4 月 18 日～20 日，神戸コンベンションセンター)の準備を進める。

２）JCR 学会誌

(1) MR 論文の質の向上と引用の増加を図り，更なる国際的展開を進める。

(2) 質の高い出版を維持し年 6 号発行する。

(3) 英文抄録集は学術集会の演題登録時に英文抄録を義務付け，MR Supplement として年 1 号をオンラインで発行する。

(4) 国際学会で MR および MRCR のプロモーション活動を精力的に行い，欧米からの投稿数増加を促す。

(5) 出版社の変更に伴う電子査読システム等の問題に速やかに対応し，投稿査読工程を安定的に提供する。

３） 専門医制度

(1) 専門医制度委員会が恒常的に行ってきた指導医の新規認定・資格更新業務，教育研修会の認定業務を引き続き実施する。

(2) 新専門医制度による研修が開始されたことを踏まえ，整備基準に沿った各種規定や専攻医公募の要件を整える。また症例登録システム（リウマチ版 J-OSLER）を稼働させ利便性の高い研修環境を提供できるようにする。

(3) リウマチ専門医の「学会認定機構承認」の申請を準備する。

(4) 膠原病・リウマチ内科領域専門医への移行に向け，更新に必要な単位数などを規則として定め，認定と更新の必要な要件をまとめる。また取得した単位を管理するアプリの開発を進める。

４）国際化の推進と若手の育成

(1) 国際化推進のため，学術集会での英語セッション枠を増やしていく。JCR2023 では JCR 会員および海外から 250 の英語演題が登録されたことで常時 3 つの英語セッションを並べ，215 演題が口演で発表することとする。

(2) 海外の若手研究者（45 歳未満）を対象とした JCR Travel Award の枠を増やし，17 か国 45 名を採択した。また海外若手研究者の奨励を目的として APLAR-JCR Award と Travel Support 枠を設け，APLAR-JCR Award に 7 名，Travel Support に 31 名を選出した。

(3) JCR 会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞（ICW Excellent Abstract Award）では，応募演題 108 演題から 34 演題（名）を選出している。

(4) 2023 年度 JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラムの募集，また APLAR 2023 チェンマイの応募演題を対象に優秀演題賞の選出を行う。

(5) リウマチ学の若手研究者の育成を目的とした国際育成セミナーを開催する。

５）その他

今後の JCR の在り方を検討するため将来構想委員会がまとめた下記の提言に関し，次期理事会へ申し送ることとする。

(1) リウマチ専門医の育成のためには，大学におけるリウマチ・膠原病領域の講座を増やすことを目指すべきであり，リウマチ・膠原病診療に対するインセンティブの確立やリウマチ・膠原病医療の保険診療報酬への反映するよう働きかけていくこと

(2) 指導医が不足している地域の大学や中核医療機関に専門医を増加させるよう働きかけていくこと

(3) リウマチ専門医と膠原病・リウマチ内科領域専門医の位置づけを明確にし，両専門医の間に差をつけないような制度設計を構築すること

(4) 会員数，評議員数の少ない地域においては会員数を増加させる対策をたて，評議員数の適正化について議論すること

(5) 基礎研究をさらに発展させ国際的なプレゼンスを高めるため，ベーシックリサーチカンファレンスを基礎学術集会への移行を目指すこと

(6) リウマチ相談員を育成し，制度化に向けて関係団体と検討すること。

(7) 海外の若手との交流，育成を図るうえで APLAR の AYR や EULAR の EMEUNET のような国際若手部会を設置すること

(8) 健全な財務基盤の構築に向け，学術集会を始めとする支出の適正化を進めること

決 算 報 告 書

第 14 期

自　令和4年3月　1日

至　令和5年2月28日

一般社団法人　日本リウマチ学会

東京都港区浜松町2丁目9番6号

貸 借 対 照 表

（単位：円）

令和5年2月28日現在

Ⅰ資産の部		2022年度	Ⅱ負債の部		2022年度
科 目			科 目		
流動資産	現金	0	流動負債	未払金	70,000
	普通預金	757,493,382		未払法人税等	70,000
	みずほ銀行/虎ノ門	(6,401,250)		前受金	5,949,000
	三菱UFJ銀行/虎ノ門	(277,123,095)		預り金	530,364
	三菱UFJ銀行/第67回学術集会口	(209,906,200)		仮受金	216,009,580
	三菱UFJ銀行/学会口	(0)			
	三菱UFJ銀行/抄録口	(0)			
	郵便貯金	(82,883,132)			
	郵便振替口座00140	(65,655,575)			
	郵便振替口座00170	(10,574,335)	流動負債合計		222,628,944
	支部預金	(104,949,795)	固定負債	学術集会等準備基金	160,800,000
	未収金	4,072,000		APLAR積立準備基金	69,905,980
	前払金	900,000			
	前払費用	1,104,048			
	仮払金	8,250,746			
			固定負債合計		230,705,980
			負債合計		453,334,924
流動資産合計		771,820,176	Ⅲ正味財産の部		
固定資産	(1)基本財産		基金	基金	120,000,000
	普通預金	120,000,000		(うち基本財産への充当額)	(120,000,000)
				(うち特定資産への充当額)	(0)
	基本財産合計	120,000,000			
	(2)特定資産		指定正味財産	指定正味財産合計	0
	特定資産合計	0		(うち基本財産への充当額)	(0)
	(3)その他固定資産			(うち特定資産への充当額)	(0)
	学術集会等積立金	160,800,000			
	APLAR積立金	69,905,980			
	構築物	7,132,309			
	什器備品	9,642,499			
	ソフトウェア勘定	20,476,500	一般正味財産	一般正味財産合計	564,679,185
	減価償却累計額	-31,800,155		(うち基本財産への充当額)	(0)
	敷金	10,036,800		(うち特定資産への充当額)	(0)
	その他固定資産合計	246,193,933			
固定資産合計		366,193,933	正味財産合計		684,679,185
資産合計		**1,138,014,109**	**負債及び正味財産合計**		**1,138,014,109**

正 味 財 産 増 減 計 算 書

自 令和4年3月1日　至 令和5年2月28日　（単位：円）

科目	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	増減(2022年−2021年)
Ⅰ.一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
会費収入	124,074,000	121,705,000	−2,369,000
事業収益			0
広告料収入	27,545,100	25,828,000	−1,717,100
諸制度収入	21,338,000	34,995,000	13,657,000
学術集会収入	269,251,845	343,455,677	74,203,832
支部収入	108,213,778	176,128,345	67,914,567
教育研修会収入	21,596,000	27,356,000	5,760,000
国際関連事業収入	1,810,000	1,920,000	110,000
経常収益計	573,828,723	731,388,022	157,559,299
(2)経常費用			0
事業費	**451,240,283**	**647,300,799**	**196,060,516**
学術集会経費	256,699,128	332,060,289	75,361,161
学術集会関連経費	4,489,093	4,283,617	−205,476
関連学会費	2,154,683	2,508,233	353,550
委員会費	2,744,337	2,894,453	150,116
会議費	2,744,891	7,026,272	4,281,381
国際関連事業費	9,867,833	12,137,881	2,270,048
諸制度運営費	12,407,837	11,132,438	−1,275,399
教育研修費	15,205,597	35,797,575	20,591,978
英文誌経費	10,556,017	48,398,493	37,842,476
情報通信経費	11,669,140	12,115,889	446,749
調査研究費	11,431,256	2,867,992	−8,563,264
支部経費	101,999,053	164,932,130	62,933,077
保守管理費	7,099,784	8,337,418	1,237,634
支払手数料	2,141,806	2,562,642	420,836
雑費	27,828	245,477	217,649
医学用語集	2,000	0	−2,000
管理費	**72,558,296**	**103,976,588**	31,418,292
給料手当	14,185,532	14,376,112	190,580
雑給	168,168	51,744	−116,424
賞与	12,657,550	14,015,300	1,357,750
通勤費	887,238	1,664,522	777,284
紹介手数料	0	0	0
法定福利費	8,191,979	8,340,054	148,075
福利厚生費	111,607	121,927	10,320
報酬	3,015,876	2,847,146	−168,730
旅費交通費	49,730	32,638	−17,092
通信運送費	3,201,084	3,675,852	474,768
印刷費	522,390	1,246,795	724,405
消耗品費	2,167,302	2,388,980	221,678
接待交際費	0	33,000	33,000
保険料	2,356,700	2,542,160	185,460
賃借料	14,713,056	14,713,056	0
水道光熱費	373,371	630,792	257,421
諸管理費	2,884,068	3,670,689	786,621
租税公課	5,775,118	32,719,579	26,944,461
移転費	0	0	0
減価償却費	1,297,527	906,242	−391,285
経常費用計	**523,798,579**	**751,277,387**	**227,478,808**
当期経常増減額	50,030,144	−19,889,365	−69,919,509
経常外増減の部			0
(1)経常外収益			0
寄付金・助成金		4,625,450	4,625,450
雑収入	50,470,604	14,538,934	−35,931,670
移転補償料			0
特別利益			0
経常外収益計	50,470,604	19,164,384	−31,306,220
(2)経常外費用			0
雑損失	180,000	0	−180,000
固定資産減損失			0
特別損失			0
APLAR積立準備基金繰入			0
経常外費用計	180,000	0	−180,000
当期経常外増減額	50,290,604	19,164,384	−31,126,220
当期一般正味財産増減額	100,320,748	−724,981	−101,045,729
一般正味財産期首残高	465,083,418	565,404,166	100,320,748
一般正味財産期末残高	565,404,166	564,679,185	−724,981
Ⅱ.指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ.基金増減の部			0
基金受入額			0
基金返還額			0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	120,000,000	120,000,000	0
基金期末残高	120,000,000	120,000,000	0
Ⅳ.正味財産期末残高	685,404,166	684,679,185	−724,981
	624,299,327	750,552,406	
	523,978,579	751,277,387	
	100,320,748	−724,981	

財　産　目　録

令和5年2月28日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額		
資産の部			
1.流動資産			
現金預金	757,493,382		
普通預金	652,543,587		
みずほ銀行/虎ノ門支店	(6,401,250)		
三菱UFJ銀行/虎ノ門支店	(277,123,095)		
三菱UFJ銀行/第67回学術集会口	(209,906,200)		
三菱UFJ銀行/学会口（事前参加登録）	(0)		
三菱UFJ銀行/抄録口	(0)		
郵便貯金	(82,883,132)		
郵便振替預金（00140）	(65,655,575)		
郵便振替預金（00170）	(10,574,335)		
支部預金	104,949,795		
未収金　ｸﾚｼﾞｯﾄｶｰﾄﾞ　他	4,072,000		
前払金	900,000		
前払費用	1,104,048		
仮払金	8,250,746		
流動資産合計		771,820,176	
2.固定資産			
基本財産			
三井住友銀行/浜松町支店	120,000,000		
基本財産合計	120,000,000		
その他固定資産			
学術集会等積立金	160,800,000		
APLAR積立金	69,905,980		
積立金合計	230,705,980		
（三菱UFJ銀行/普通預金・基金口）			
建物附属設備・器具備品・ソフトウェア	5,451,153		
敷金	10,036,800		
その他固定資産合計	246,193,933		
固定資産合計		366,193,933	
資産合計			1,138,014,109

科　　目	金　　額		
負債の部			
1.流動負債			
未払金	70,000		
未払法人税等	70,000		
前受金	5,949,000		
2023～2025年度会費等	(789,000)		
指導医登録料　130名	(2,600,000)		
専門医登録料　117名	(2,340,000)		
その他　研修会共催金等	(220,000)		
預り金　源泉所得税・健康保険・厚生年金	530,364		
仮受金　総会学術集会等	216,009,580		
流動負債合計	222,628,944		
1.固定負債			
学術集会準備基金	160,800,000		
APLAR積立準備基金	69,905,980		
固定負債合計	230,705,980		
負債合計		453,334,924	
正味財産			684,679,185

財務諸表に対する注記

1.重要な会計方針

資産の評価基準及び評価方法

(1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品は最終仕入原価法

(2)固定資産の減価償却の方法

有形固定資産　　法人税法の規定による定率法
但し、平成10年4月1日以降取得の建物については定額法

無形固定資産　　法人税法の規定による定額法

(3)消費税等の会計処理　　消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	資産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	普通預金	120,000,000	0	0	120,000,000
	基本財産計	120,000,000	0	0	120,000,000
特定資産	特定資産計	0	0	0	0
合計		120,000,000	0	0	120,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	資産の種類	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち基金からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産	普通預金	120,000,000	0	0	120,000,000	0
	基本財産計	120,000,000	0	0	120,000,000	0
特定資産	特定資産計	0	0	0	0	0
合計		120,000,000	0	0	120,000,000	0

第66回 日本リウマチ学会総会・学術集会
会長　　田中　栄

費　目	内　容	単　価	数量	金　額
第66回 日本リウマチ学会総会・学術集会（学会収入）				
1．参加者会費（有料参加者7,199名）				117,651,000
	一般会員	17,000	4,723	80,291,000
	一般（非会員）	20,000	1,691	33,820,000
	コメディカル・大学院生	4,000	385	1,540,000
	コメディカル・大学院生（非会員）	5,000	223	1,115,000
	専攻医	5,000	177	885,000
	初期臨床研修医・医学部学生			0
2．懇親会参加費収入				0
	全員懇親会参加費			0
3．単位手数料収入				4,859,000
	日本整形外科学会	1,000	4,859件	4,859,000
4．抄録集販売収入				663,000
	和文抄録集販売	3,000	220件	660,000
	海外抄録集購入者からの送料	3,000	1件	3,000
5．企業展示出展料				43,423,677
	特設ブース	3,300,000	12社	39,600,000
	基礎（小間）	330,000	11社	3,630,000
	書籍展示	193,677	1社	193,677
6．広告料収入				3,060,000
	抄録集掲載料	1,510,000	1式	1,510,000
	ハンディプログラム掲載料	780,000	1式	780,000
	スマートフォンアプリ広告掲載料	110,000	7社	770,000
7．共催セミナー収入　（57枠）				160,800,000
	ランチョンセミナー　大A会場クラス	3,000,000	3	9,000,000
	大B会場クラス	2,800,000	11	30,800,000
	中会場クラス	2,200,000	13	28,600,000
	小会場クラス	1,300,000	8	10,400,000
	イブニングセミナー　大A会場クラス	3,000,000	2	6,000,000
	大B会場クラス	2,800,000	8	22,400,000
	中会場クラス	2,200,000	8	17,600,000
	小会場クラス	1,300,000	4	5,200,000
	LIVE配信共催費	550,000	56	30,800,000
8．寄附金収入				12,999,000
	日本製薬団体連合会	7,499,000	1	7,499,000
	製薬企業、医療機器取扱企業、その他	500,000	1	500,000
	横浜MICE助成金	5,000,000	1	5,000,000
9．雑収入				0
10．繰入金				0
	学術集会繰入基金	0	1	0
収入合計				343,455,677

費　目	金　額
第66回 日本リウマチ学会総会・学術集会（学会支出）	
Ⅰ. 事前準備費	99,283,164
1．人件費	32,210,977
本部事務局費	27,480,977
サポート準備室人件費	4,730,000
2．経費	67,072,187
印刷・制作物関係費	32,863,500
情報発信（ホームページ）関連費	2,056,032
旅費交通費	0
演題処理関係費	7,980,500
プログラム関係費	0
通信運送費	14,919,775
備品・消耗品費	264,000
外注費	0
諸経費	8,988,380
Ⅱ. 当日運営費	208,224,804
1．人件費	11,142,450
2．旅費交通費	6,295,324
3．会場費	72,792,684
4．機材・備品費	91,732,520
機材・備品費	82,928,560
その他機材費	4,018,960
受付用システム導入費（クレジット・共催セミナー・事前登録）	4,785,000
5．看板装飾費	4,523,200
6．展示関係費	5,623,420
7．招聘関係費（非会員招聘費用、トラベルアワード、シンポジウム費用招聘費に該当）	6,284,952
8．会合関係費（全員懇親会、ドリンクサービス、会長企画招宴費用含む）	2,408,431
9．ハンズオンセミナー関係費	1,416,417
10．その他	6,005,406
Ⅲ. 事後処理費	6,549,982
1．人件費	220,000
2．旅費交通費	0
3．印刷費（礼状等）	544,280
4．通信運送費	0
5．公認会計士監査料（会計監査料）	275,000
6．支払手数料	161,162
7．その他諸経費（クレジット精算手数料）	5,349,540
8．雑損失	0
Ⅳ. 業務委託費	18,002,339
1．進行管理費	18,002,339
Ⅴ. 学術集会準備基金	0
1．学術集会準備金	
2．若手育成（ICW, Travel Award）	
Ⅵ．剰余金	11,395,388
支出合計	343,455,677

独立監査人の監査報告書

令和4年9月26日

第66回日本リウマチ学会総会・学術集会
会長　田中　栄　殿

小見山公認会計士事務所

公認会計士 小見山 [illegible]

監査意見

私は、第66回日本リウマチ学会（以下法人）総会・学術集会収支報告書（会期令和4年4月25日から令和4年4月27日開催。以下、収支報告書）の監査を行った。

私は、上記の収支報告書は、第66回日本リウマチ学会総会・学術集会の収支の状況を、全ての重要な点において、学術集会事務運営細則に準拠して作成されているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「収支計算書の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

収支計算書作成の基礎並びに配布及び利用制限

収支報告書は、一般社団法人日本リウマチ学会及び第66回日本リウマチ学会総会・学術集会のために、学術集会事務運営細則に準拠して作成されており、それ以外の目的には適合しないことがある。このことは、私の意見に影響を及ぼすものではない。

本報告書は、一般社団法人日本リウマチ学会及び第66回日本リウマチ学会総会・学術集会のみを利用者として想定しており、一般社団法人日本リウマチ学会及び第66回日本リウマチ学会総会・学術集会以外に配布及び利用されるべきものではない。

収支計算書に対する会長の責任

会長の責任は、学術集会事務運営細則に準拠して収支報告書を作成することにある。また、収支計算書の作成に当たり適用される会計の基準が状況に照らして受入可能なものであるかどうかについて判断することにある。会長の責任には、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない収支報告書を作成するために会長が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

収支計算書の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体として収支計算書に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から収支計算書に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、収支計算書の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 収支計算書の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 会長が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに会長によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 会長が入手した監査証拠に基づき、重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。重要な不確実性に関する収支計算書の注記事項が適切でない場合は、収支計算書に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいている。
- 収支計算書の表示及び注記事項が、学術集会事務運営細則に記載された会計の基準に準拠しているかどうかを評価する。

利害関係

第66回日本リウマチ学会総会・学術集会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

令和５年３月１４日

一般社団法人日本リウマチ学会
理事長 竹内　勤　殿

小見山公認会計士事務所

公認会計士 小見山 [illegible]

監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 124 条第２項第１号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本リウマチ学会の令和４年３月１日から令和５年２月２８日までの第１２期事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相

違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、

また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。

・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監査報告書

私は，一般社団法人日本リウマチ学会監事として，令和４年３月１日から令和５年２月 28 日までの事業年度の貸借対照表，正味財産増減計算書並びに財産目録，剰余金の処分に関する議案及び付属明細書を監査致しました結果，適法かつ正確であることを認めます。

令和５年　３月　16 日

一般社団法人 日本リウマチ学会

監 事　岡山昭彦㊞

監 事　橋本淳㊞

2023年度予算書（案）

（単位：円）

	科目	予算案（2022年度）	実 績（2022年度）	予算案（2023年度）
	Ⅰ.一般正味財産増減の部			
	経常増減の部			
	(1)経常収益			
	受取会費			
	会費収入	119,784,000	121,705,000	116,424,000
	事業収益			
	広告料収入	23,800,000	25,828,000	21,300,000
	諸制度収入	30,800,000	34,995,000	31,180,000
	学術集会収入	348,160,000	343,455,677	333,487,000
	支部収入	116,000,000	176,128,345	116,000,000
	教育研修会収入	21,350,000	27,356,000	23,780,000
	国際関連事業収入	1,500,000	1,920,000	3,600,000
A	**経常収益計**	661,394,000	731,388,022	645,771,000
	(2)経常費用			
	事業費			
	学術集会経費	348,160,000	332,060,289	333,487,000
	学術集会関連経費	4,600,000	4,283,617	4,600,000
	関連学会費	2,400,000	2,508,233	2,400,000
	委員会費	11,688,000	2,894,453	6,322,000
	会議費	4,800,000	7,026,272	8,300,000
	国際関連事業費	19,400,000	12,137,881	25,700,000
	諸制度運営費	9,761,000	11,132,438	14,180,000
	教育研修費	40,562,000	35,797,575	46,408,000
	英文誌経費	22,700,000	48,398,493	17,920,000
	情報通信経費	11,500,000	12,115,889	10,900,000
	調査研究費	52,700,000	2,867,992	19,800,000
	支部経費	116,000,000	164,932,130	116,000,000
	保守管理費	14,068,000	8,337,418	6,912,000
	支払手数料	2,620,000	2,562,642	2,700,000
	雑費		245,477	
	医学用語集			
	管理費			
	給料手当	8,000,000	14,376,112	15,000,000
	雑給	600,000	51,744	1,200,000
	賞与	13,000,000	14,015,300	15,000,000
	紹介手数料			1,000,000
	通勤費	2,100,000	1,664,522	2,100,000
	法定福利費	8,000,000	8,340,054	7,000,000
	福利厚生費	150,000	121,927	120,000
	報酬	2,945,000	2,847,146	2,935,000
	旅費交通費	240,000	32,638	100,000
	通信運送費	4,140,000	3,675,852	3,598,000
	印刷費	1,670,000	1,246,795	1,050,000
	消耗品費	1,100,000	2,388,980	1,700,000
	接待交際費	50,000	33,000	50,000
	保険料	2,400,000	2,542,160	2,500,000
	賃借料	15,700,000	14,713,056	16,100,000
	水道光熱費	390,000	630,792	640,000
	諸管理費	3,129,800	3,670,689	5,084,000
	租税公課	12,620,200	32,719,579	5,180,000
	移転費用			
	減価償却費	2,000,000	906,242	1,500,000
	予備費	6,000,000		3,000,000
B	**経常費用計**	745,194,000	751,277,387	700,486,000
	当期経常増減額	−83,800,000	−19,889,365	−54,715,000
	経常外増減の部			
	(1)経常外収益			
	寄付金			
	雑収入	35,000,000	19,164,384	14,415,000
	再開発関連収入			
	助成金収入	57,800,000		22,800,000
	積立金取崩収入			
	学術集会等積立取崩			3,000,000
	APLAR積立金取崩			15,000,000
	前期正味財産繰入			
	前期正味財産繰入			
C	**経常外収益計**	92,800,000	19,164,384	55,215,000
	(2)経常外費用			
	法人税等			
	雑損失			
	固定資産減損損失			
	特別損失	9,000,000		500,000
	APLAR積立準備基金繰入			
D	**経常外費用計**	9,000,000	0	500,000
	当期経常外増減額		19,164,384	
	当期一般正味財産増減額		−724,981	
	一般正味財産期首残高		565,404,166	
	一般正味財産期末残高		564,679,185	
	Ⅱ.指定正味財産増減の部			
	当期指定正味財産増減額			
	指定正味財産期首残高			
	指定正味財産期末残高			
	Ⅲ.基金増減の部			
	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額			
	基金期首残高		120,000,000	
	基金期末残高		120,000,000	
	Ⅳ.正味財産期末残高		684,679,185	
	収入合計(A+C)	754,194,000	750,552,406	700,986,000
	支出合計(B+D)	754,194,000	751,277,387	700,986,000
	差額	0	−724,981	0

第66回 日本リウマチ学会総会・学術集会予算

●収入の部

項　　目	単　価	数量	金額	備　　考
1 参加費等			**101,830,000**	**有料6,560名**
参加登録費（事前当日の区別なし）		**6,560名**		
会員／一般	@17,000 ×	4,250名	72,250,000	
非会員／一般・海外含む	@20,000 ×	1230名	24,600,000	
会員／コメディカル・大学院生	@4,000 ×	420名	1,680,000	
非会員／コメディカル・大学院生	@5,000 ×	160名	800,000	
専攻医	@5,000 ×	500名	2,500,000	
2 懇親会参加費収入	@1,000 ×	0	**0**	
3 単位手数料収入	@1,000 ×	6,100件	**6,100,000**	
4 抄録集販売収入	@3,000 ×	140冊	**420,000**	
5 企業展示出展料			**43,270,000**	（2022年1月時点での申込数）
特設展示出展料	@3,300,000 ×	12社	39,600,000	
基礎小間出展料	@330,000 ×	9社	2,970,000	
書籍展示	@700,000 ×	1社	700,000	
6 広告料			**3,060,000**	（2022年1月時点での申込数）
【抄録集】				
表4	@440,000 ×	1社	440,000	
表3	@380,000 ×	1社	380,000	
表2	@350,000 ×	1社	350,000	
グラビア１ｐ（カラー）	@330,000 ×	0社	0	
後付け１ｐ（モノクロ）	@110,000 ×	2社	220,000	
後付け1/2ｐ	@60,000 ×	2社	120,000	
【ハンディプログラム】				（2022年1月時点での申込数）
表4	@360,000 ×	1社	360,000	
表3	@300,000 ×	0社	0	
表2	@280,000 ×	0社	0	
グラビア１ｐ（カラー）	@250,000 ×	1社	250,000	
後付け１ｐ（モノクロ）	@90,000 ×	1社	90,000	
後付け1/2ｐ	@40,000 ×	2社	80,000	
【その他】				
アプリ広告料	@110,000 ×	7社	770,000	
7 各種セミナー共催金			**155,850,000**	（2022年1月時点での申込数）
【ランチョンセミナー】		**35セッション**		
大Aクラス（第1会場　1,296席）	@3,000,000 ×	3セッション	9,000,000	
大Bクラス（400席以上～576席未満）	@2,800,000 ×	11セッション	30,800,000	
中クラス（250席未満）	@2,200,000 ×	13セッション	28,600,000	
小クラス(190席)	@1,300,000 ×	8セッション	10,400,000	
【イブニングセミナー】		**22セッション**		（2022年1月時点での申込数）
大Aクラス（第1会場　1,296席）	@3,000,000 ×	2セッション	6,000,000	
大Bクラス（400席以上～576席未満）	@2,800,000 ×	8セッション	22,400,000	
中クラス（250席未満）	@2,200,000 ×	8セッション	17,600,000	
小クラス(190席)	@1,300,000 ×	4セッション	5,200,000	
【LIVE配信共催費】				（2022年1月時点での申込数）
LIVE配信共催費	@550,000 ×	47セッション	25,850,000	
8 寄付金			**8,500,000**	
日本製薬団体連合会		1式	8,000,000	
サノフィ株式会社		1式	500,000	
9 その他			**25,000,000**	
本部助成金		1式	25,000,000	
合　計			**¥344,030,000**	

●支出の部　　(単位：円)

項　　目	数　　量	金額	備　　考
1．事前準備費		**89,674,001**	
1）　事務局人件費	一　式	23,062,500	
2）　業務事務費	一　式	7,310,000	
3）　事務局諸経費・発送費等	一　式	11,525,677	
4）　事前参加登録システム関係費	一　式	7,854,950	
5）　演題登録システム	一　式	1,950,000	
6）　査読システム	一　式	650,000	
7）　備品・消耗品費	一　式	240,000	
8）　印刷・制作物関係費	一　式	29,712,700	
9）　ホームページ	一　式	1,713,174	
10）　演題処理関係費	一　式	4,655,000	
11）　旅費・交通費	一　式	1,000,000	
2．当日運営費		**196,363,164**	
1）　会場借り上げ費	一　式	60,933,047	
2）　会場付帯設備費	一　式	12,838,789	
3）　機材費	一　式	73,022,400	
4）　看板・受付・PC受付	一　式	3,060,500	
5）　ポスター・ハンズオン会場	一　式	3,412,600	
6）　機器展示設営	一　式	3,006,000	
7）　受付システム	一　式	3,743,900	
8）　共催セミナー発券システム	一　式	0	
9）　運営人件費	一　式	10,139,500	
10）　印刷・制作物費	一　式	2,088,980	
11）　備品費	一　式	1,644,000	
12）　招聘関係費	一　式	9,010,148	
13）　飲食・会合費	一　式	6,100,000	
14）　宿泊・交通費	一　式	5,338,300	
15）　運営諸経費	一　式	2,025,000	
16）　託児運営費	一　式	0	中止
3．事後処理費		**596,000**	
4．業務委託費		**16,400,150**	
小　　計		**303,033,315**	
消費税（10%）		**18,040,165**	一部除く
中　　計		**321,073,480**	
予 備 費		**22,956,520**	
合　　計		**¥344,030,000**	

７）リウマチ専門医研修制度に関する規則の改定案	
【現　行】	【改定案】
（研修） 第３条　専門医申請資格を得ようとする者は、「リウマチ版 J-OSLER」に登録し、「専門医研修計画」（以下「研修計画」）に従い研修を行う。 ２　研修計画は認定教育施設が専門医研修カリキュラムに従い研修できるよう作成する。	（研修） 第３条　専門医申請資格を得ようとする者は、「リウマチ版 J-OSLER」に登録し、「専門医研修計画」（以下「研修計画」）に従い研修を行う。 ２　研修計画は基幹施設が専門医研修カリキュラムに従い研修できるよう作成する。
（申請資格） 第４条　新制度による専門医申請資格は、次の各号の条件を満たす者に付与される。 ①　日本国の医師免許証を有し、医師として人格及び見識を備えていること ②　研修開始時において学会の会員であること ③　認定教育研修施設において３年以上の研修を行うこと ④　認定教育施設発行の研修修了証明書が発行されていること ⑤　専門医機構認定内科専門医の専門医資格を有していること	（申請資格） 第４条　新制度による専門医申請資格は、次の各号の条件を満たす者に付与される。 ①　日本国の医師免許証を有し、医師として人格及び見識を備えていること ②　学会の会員であること ③　研修施設において３年以上の研修を行うこと ④　基幹施設発行の研修修了証明書が発行されていること ⑤　専門医機構認定内科専門医の専門医資格を有していること
附則（2022 年４月 25 日） １　この規則の改定は、2022 年度定時社員総会で承認をうけ、同年５月１日から施行する。	附則（2022 年４月 25 日） １　この規則の改定は、2022 年度定時社員総会で承認をうけ、同年５月１日から施行する。 附則（2023 年４月 24 日） １　この規則の改定は、2023 年度定時社員総会で承認をうけ、同年５月１日から施行する。

第４号の２議案

日本リウマチ学会利益相反マネジメント規則	
2）一般社団法人 日本リウマチ学会「事業活動の利益相反に関する指針」の細則の改定案	
※第７条、第８条、第９条を追加	
【現　行】	【改定案】
	（追加） 第７条（診療ガイドライン（CPG）小委員会の COI マネジメント） ガイドライン小委員会の委員が抗リウマチ薬市販後調査（PMS）小委員会委員を兼任することについては、情報共有できるというメリットがある反面、倫理面では利益相反に対する十分な配慮が求められ、状況に応じてその説明責任を追うことを社会から求められることがある。そのため、各ガイドライン小委員会の委員は、以下の①～③に関与した場合において、PMS 対象となる薬剤の PMS 小委員会の委員から外れることとする。①創薬・開発研究、②治験（治験参加施設の治験責任医師・分担医師は含まない）、③ガイド・手引き作成。①～③に関与しない場合には、PMS 小委員会の委員として参加できるが、ガイド・手引きの作成には関与できない。 ガイドライン委員会の委員長はアドバイザーとして、各薬剤のガイドライン小委員会に参加できるが、作成には関わらない。
	（追加） 第８条（診療ガイドライン（CPG）策定参加資格の判断基準） ガイド・手引き作成する場合も、以下の判断基準に従い、作成に携わる委員の COI を開示する。 日本医学会で定めた「診療ガイドライン（CPG）策定参加資格ガイダンス」に沿って、金額区分による CPG 策定参加資格の判断基準を設ける。 CPG 策定委員（委員長を含む）は、表１の各項目の基準値をいずれも超えない場合、CPG 策定作業に参画し、議決権を持つことができる。しかし、策定委員の COI が表１の項目のいずれかを超える場合は、議決権を有しない。但し、その策定委員が

CPG を策定するうえで必要不可欠な人材であり、その判断と措置の公正性および透明性が明瞭に担保されるかぎり、CPG 策定プロセスに参加させることができる。

表１　CPG 策定委員の議決権に係る基準額

診療ガイドライン策定参加者の個人 COI　（1年あたりの金額）	
４．講演料	200 万円
5. パンフレットなどの執筆料	200 万円
6. 受け入れ研究費	200 万円
7. 奨学寄附金	1,000 万円

なお、CPG 公表時に、その時点で前年に遡って過去３年間の策定参加者ごとの所属・職名と COI 状態について、ガイドライン統括委員会、ガイドライン策定委員会、システマティックレビューチームに分類し、様式１にて、CPG 本文の前か、末尾に記載し公開しなければならない。申告期間について、ガイドライン作成開始が過去 3 年を超える場合には、その開始時期からとし、コンサルタント料の区分や研究費と奨学寄付金、また治験費用の扱いに関する内容を明確に記載することとする。なお手引き・ガイドの場合は、COI マネジメント委員会の審査のもとで適正に管理されていれば、策定参加者ごとの公開は不要とする。

様式１　CPG 策定委員会・システマティックレビューチーム参加者の COI 開示

参加者名(所属.職名) ①顧問　②株保有・利益　③特許使用料　④講演料　⑤原稿料　⑥研究費　⑦寄付金　⑧寄附講座　⑨その他	
○○太郎 M 病院 N 科部長	C 製薬　H 製薬　B 製薬 D 製薬　E 製薬 C 製薬

さらに、当該ガイドライン策定参加者の COI 開示とともに、CPG 策定に要した資金の拠出を「様式２」に従って公開することとする。

<table>
<tr><td></td><td>なお、この CPG 策定参加基準は厚生労働省の研究班には当てはまらないこととする。

様式 2　診療ガイドラインを策定する当該分科会の COI 開示（例）

<table><tr><td>１）分科会の事業活動に関連して、資金（寄付金）を提供した企業名</td></tr><tr><td>A 製薬　B 製薬　C 製薬　D 製薬　E 製薬　F 製薬</td></tr><tr><td>２）診療ガイドライン策定に関連して、資金を提供した企業名</td></tr><tr><td>C 製薬　E 製薬　F 製薬</td></tr></table></td></tr>
<tr><td></td><td>（追加）
第９条（抗リウマチ薬市販後調査（PMS）小委員会の COI マネジメント）
PMS 小委員会と兼務しているガイドライン小委員会委員は、すでに PMS 小委員会の対象となっている薬剤に関するガイド・手引きの作成に関与することはできない。但し、内容等に関する情報共有は可とする。
PMS 小委員会の委員が、企業主催および共催の講演会などで PMS 中の薬剤に関する講演や、報酬を伴う安全性や適性使用に関する資料の作成・監修などを行う際には、COI をよく考慮のうえ行うこととする。受領できる１年あたりの限度額は 50 万円とする。
企業や営利団体が主催・共催する研究会や講演会で、座長／司会者はスライドを用いて、COI がある企業・団体の名称を聴講者に開示して読み上げる必要はない。</td></tr>
<tr><td>第７条（違反者等への措置）
・・・
第８条（不服申し立て）
・・・
第９条（細則の変更）
・・・</td><td>第１０条（違反者等への措置）
・・・
第１１条（不服申し立て）
・・・
第１２条（細則の変更）
・・・</td></tr>
<tr><td></td><td>附則
本細則は理事会の承認を得て、令和 4 年 10 月 23 日に一部改定し、同日より施行する。</td></tr>
</table>

会員の懲罰の件

１．氏　　名：佐浦隆一

２．会 員 番 号：04208

３．懲罰該当行為 ：

Modern Rheumatology の論文査読依頼に対し、編集委員会の了解なく自らが受任した査読論文について査読チャレンジと称して、査読論文全文を添付して査読者を広く募集した。この行為は、

- 指導的立場にいる者として一般的には考えられない違法行為であり、守秘義務違反であること
- 募集した範囲が 440 件と広範囲にもおよび、過去にも同様の行為を 3 回（2020 年 1 回、2021 年 2 回各 8 名に送付）行っていたこと
- 論文著者の利益を損ない、論文が悪用されうる状況を作ったこと
- 自らが査読を行うという評議員の義務を怠ったこと
- 学会および Modern Rheumatology の社会的信用と名誉を失墜させる状況を生じさせたこと

に該当し、会員の懲罰に関する細則「第 3 条（１）研究者あるいは医師としての社会的モラルや品位に欠ける行為であり、それが本会の名誉および社会的信用に影響を及ぼすおそれがある行為」であると認定する。

４．懲 罰 の 程 度：

同細則「第２条（４）委員会委員を罷免し、相当な期間を定めて委員の就任資格を停止する」に相当する「学会評議員資格の停止」とする。その期間は 2023 年 4 月 24 日から 2 年間とする。

第６号議案

一般社団法人日本リウマチ学会　第 11 期役員(理事)選任の件

本案は，日本リウマチ学会第 10 期役員の任期満了に伴い，定款第 14 条の規定「役員の選任は社員総会の決議による」と定めていることから，第 11 期役員の選任について提案するものです。

□ 理事候補者 19 名　（敬称略　五十音順　*印は支部選出　**印は理事会推薦）

渥 美 達 也*　（北海道大学病院）
石 井　　優　（大阪大学大学院医学系研究科免疫細胞生物学講座）
門 野 夕 峰*　（埼玉医科大学）
川 上　　純*　（長崎大学病院）
川 人　　豊**　（京都府立医科大学膠原病・リウマチ・アレルギー科）
桑 名 正 隆*　（日本医科大学大学院医学研究科
アレルギー膠原病内科学分野）
小 嶋 俊 久*　（国立病院機構名古屋医療センター）
田 中　　栄　（東京大学医学部附属病院）
田 中 良 哉　（産業医科大学医学部第１内科学講座）
田 村 直 人**　（順天堂大学医学部膠原病内科）
土 橋 浩 章*　（香川大学医学部内科学講座血液・免疫・呼吸器内科学）
中 川 夏 子　（兵庫県立加古川医療センター）
中島亜矢子　（三重大学医学部附属病院リウマチ・膠原病センター）
針 谷 正 祥　（東京女子医科大学医学部内科学膠原病リウマチ内科学分野）
藤 井 隆 夫*　（和歌山県立医科大学医学部リウマチ・膠原病科学講座）
藤 尾 圭 志　（東京大学大学院医学研究科アレルギー・リウマチ学）
持 田 勇 一　（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
桃 原 茂 樹　（医療法人社団博恵会草薙整形外科リウマチクリニック）
森　　雅 亮　（東京医科歯科大学生涯免疫難病学講座）

評議員選出承認・報告の件（44 名）

阿部　史人（秋田大学医学部附属病院）

浅島　弘充（筑波大学医学医療系）

江辺　広志（茨城西南医療センター病院）

金子　駿太（JCHO 東京山手メディカルセンター）

酒井　亮太（埼玉医科大学総合医療センター）

高橋　広行（国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院）

塚本　昌子（日本大学医学部）

長澤　洋介（日本大学医学部）

根本　卓也（三愛会総合病院）

前澤　玲華（獨協医科大学）

和田　琢（埼玉医科大学）

秋山　光浩（慶應義塾大学病院）

岩本　太郎（千葉大学医学部附属病院）

加々美　新一郎（総合病院国保旭中央病院）

齋藤　俊太郎（慶應義塾大学病院）

髙梨　敏史（慶應義塾大学）

田中　繁（千葉大学医学部附属病院）

永井　佳樹（東京都立多摩総合医療センター）

西川　卓治（東京都立墨東病院）

萩原　茂生（千葉大学医学部附属病院）

三好　雄二（東京都立多摩総合医療センター）

小寺　雅也（地域医療機能推進機構中京病院）

鈴木　望人（名古屋大学医学部附属病院）

石田　貴昭（天の川病院）

辻　英輝（京都大学医学部附属病院）

中林　晃彦（大阪南医療センター）

福田　康治（松原メイフラワー病院）

沖田　駿治（岡山済生会総合病院）

林原　雅子（国立病院機構米子医療センター）

的場　謙一郎（医療法人社団清仁会宇多津病院）

石田　素子（九州医療センター）

高岡　宏和（くまもと森都総合病院）

馬渡　太郎（浜の町病院）

山口　真（愛知医科大学）

千藤　荘（神戸大学医学部附属病院）

中澤　隆（大阪府済生会中津病院）

野口　貴明（大阪南医療センター）

藤岡　数記（京都府立医科大学附属病院）

柳樂　慶太（鳥取大学医学部附属病院）

原田　遼三（倉敷スイートホスピタル）

赤崎　幸穂（九州大学病院）

久保田　知洋（鹿児島市立病院）

津嶋　秀俊（九州大学病院）

山﨑　雄一（鹿児島大学病院）

1. 名誉会員の選任の報告の件（4 名）

名誉会員の内規により「名誉会員」とする。

齋藤　知行（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター）

宗圓　　聰（そうえん整形外科
骨粗しょう症・リウマチクリニック）

佐野　　統（医療法人医仁会武田総合病院）

宮原　寿明（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

2. 功労会員の選任･報告の件（23 名）

相原　　泰（公立学校共済組合四国中央病院）

大塚　隆信（愛知県）

岡本　　尚（愛知県）

佐藤　和人（新宿つるかめクリニック）

竹森　弘光（青森慈恵会病院）

寺井　千尋（聖桜会サクラビアクリニック）

中園　　清（新潟県立リウマチセンター）

橋詰　博行（医療法人社団清和会笠岡第一病院）

藤咲　　淳（医療法人社団廣仁会豊水総合ﾒﾃﾞｨｶﾙｸﾘﾆｯｸ）

槇野　茂樹（大阪医科薬科大学）

森　　修（水前寺とうや病院）

米本　光一（医療法人社団光友会よねもと整形外科）

上田　　章（城見会アムスランドマーククリニック）

大塚　　毅（医療法人相生会新吉塚病院）

小林　和夫（地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所）

白井　　輝（社会福祉法人聖テレジア会聖ヨゼフ病院）

種市　幸二（たねいちリウマチクリニック）

長岡　章平（国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院）

西野　仁樹（医療法人大坪会東和病院）

半田　祐一（さいたま赤十字病院）

藤田　宜是（独立行政法人地域医療機能推進機構横浜中央病院）

松本　智子（あじさいクリニック）

吉尾　　卓（久喜リウマチクリニック）

第 9 号議案

第７０回日本リウマチ学会会長　候補者

(2026 年 4 月開催予定)

注：年齢は学術集会開催年の４月１日現在満 66 歳未満である者
【1960 年(昭和 35 年)4 月 2 日以後生まれの者】

□ 渥美 達也 （昭和 37 年 12 月 14 日生）

北海道大学副学長
北海道大学病院長
北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室教授

推薦者：高木理彰・田中栄・田中良哉・堀内孝彦・森雅亮

所　信：次頁掲載

略　歴：　“

業　績：　“

2023年1月24日

一般社団法人　日本リウマチ学会
理事長　竹内勤先生

推　薦　書

第70回日本リウマチ学会総会・学術集会（2026年4月開催予定）の会長候補として渥美達也氏（北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室教授）を適任と考えて、推薦します。

（推薦者）

山形大学医学部　整形外科学講座教授
（北海道・東北支部　支部長）　高木　理彰

東京大学大学院医学研究科
外科学専攻感覚・運動機能医学講座
整形外科学教授
（副理事長）　田中　栄

産業医科大学医学部第1内科学講座教授
（理事）　田中　良哉

九州大学病院別府病院
免疫・血液・代謝内科教授・病院長
（副理事長）　堀内　孝彦

東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座教授
（理事）　森　雅亮

2023年1月24日

一般社団法人　日本リウマチ学会
理事長　竹内勤先生

推　薦　書

第70回日本リウマチ学会総会・学術集会（2026年4月開催予定）の会長候補として渥美達也氏（北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室教授）を適任と考えて、推薦します。

（推薦者）

山形大学医学部　整形外科学講座教授
（北海道・東北支部　支部長）　高木　理彰

高木理彰

2023年1月24日

一般社団法人　日本リウマチ学会
理事長　竹内勤先生

推　薦　書

第70回日本リウマチ学会総会・学術集会（2026年4月開催予定）の会長候補として渥美達也氏（北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室教授）を適任と考えて、推薦します。

（推薦者）

東京大学大学院医学研究科
外科学専攻感覚・運動機能医学講座
整形外科学教授
（副理事長）　田中　栄

田中　栄

2023年1月24日

一般社団法人　日本リウマチ学会
理事長　竹内勤先生

推　薦　書

第70回日本リウマチ学会総会・学術集会（2026年4月開催予定）の会長候補として渥美達也氏（北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室教授）を適任と考えて、推薦します。

（推薦者）

産業医科大学医学部第1内科学講座教授
（理事）　田中　良哉

田中良哉

2023年1月24日

一般社団法人　日本リウマチ学会
理事長　竹内勤先生

推　薦　書

第70回日本リウマチ学会総会・学術集会（2026年4月開催予定）の会長候補として渥美達也氏（北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室教授）を適任と考えて、推薦します。

（推薦者）

九州大学病院別府病院
免疫・血液・代謝内科教授・病院長
（副理事長）　堀内　孝彦

堀内　孝彦

2023年1月24日

一般社団法人　日本リウマチ学会
理事長　竹内勤先生

推　薦　書

第70回日本リウマチ学会総会・学術集会（2026年4月開催予定）の会長候補として渥美達也氏（北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室教授）を適任と考えて、推薦します。

（推薦者）

東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座教授
（理事）　森　雅亮

森　雅亮

第 70 回日本リウマチ学会総会・学術集会会長への立候補における所信

北海道大学副学長
北海道大学病院長
北海道大学大学院医学研究院　免疫・代謝内科学教室　教授
渥美達也

このたび、第 70 回日本リウマチ学会総会・学術集会会長へ立候補させていただきます。

リウマチ性疾患や膠原病の最良の医療を患者に提供するため、日本リウマチ学会（JCR）は学術集会やその他の機会を通じて、最新の情報を診療に関わる医療者へリアルタイムで提供する義務があります。私は、第 7 期から 9 期にかけて、JCR 北海道・東北支部の支部長として、その後も北海道代表常任委員として、おもに地域のもつリウマチ診療の問題点に多くの関係者の方々と協力体制のもと活動して参りました。また、当該期間の理事として、JCR 一般の活動の一端を担ってまいりました。現在、JCR においては、全身性エリテマトーデスガイドライン小委員会委員長、学会誌編集委員会 MR 編集委員会の副委員長を拝命し、さらに教育施設認定委員会委員長、国際委員会副委員長などを歴任して、それぞれの立場で活動し一定の成果をあげてきたと自負いたしております。
いうまでもなく年次の学術集会は JCR の活動の集大成であり、知識のアップデート、研究のディスカッションそして会員同士の学術的交流の場として最も重要なイベントです。さらに、日本あるいは国際社会に対して JCR の社会貢献の責任を果たし、活動の意義をアピールする機会でもあります。
第 70 回日本リウマチ学会総会・学術集会においては、とくに以下の点に重点をおきたいと考えます。

1. 学術集会の最も古典的な意義は、研究の結果を他の研究者とシェアし、ディスカッションをおこなうことで自らの研究の質をたかめることです。日本国内の JCR 会員はもとより、世界の一流の研究者が一堂に会する JCR 学術集会は、会員にとって自分の研究をすすめるためのもっともよい機会であり、70 年の歴史を経ても変わらない学術集会の本質です。これをそこなうことのないよう、シンポジウム、一般演題とも、十分なディスカッションの時間をとって、会員の研究の進展のきっかけになる学術集会とすべきです。
2. 次に、学術集会は専門領域の知識をアップデートし、高度で最新の医療を患者に還元できる機会となることです。昨今は教育講演を試聴するだけなら学術集会に参加しなくて

も多くの媒体がありますが、多忙な日常業務から一時離れて学術集会に参加される会員の皆様が効率よく、さらに最先端研究の成果を含めた日常診療に役立つ知識を有機的に学べるよう、JCR 学術集会ならではの教育講演のシリーズを用意したいと思います。

3. そして、JCR がめざすのは会員間のみならず、世界のリサーチャーやクリニシャンとの活発な交流です。長年にわたる JCR のリーダーや国際委員会の努力により、欧州・米国・アジア太平洋地域の研究者や組織との深い関連がすでに確立しています。国際委員会企画のセッションはもちろん、一般のシンポジウムや一般演題で、そしてロビーで、気軽に国外参加者を含めたディスカッションや交流がふんだんにできるよう、国外からの参加の促進し、プログラムや会場を工夫したいと考えています。国内外での交流が結果として JCR 活動のアピールとなり、さらなる JCR の発展に直結すると信じます。

JCR 会員のみなさまの心に残る 70 回目の学術集会となりますよう、粉骨砕身、準備にあたらせていただきますので、ご支援、ご指導いただけますよう、よろしくお願いいたします。

略歴

渥美達也　（あつみたつや）

北海道大学副学長
北海道大学病院長
北海道大学大学院医学研究院　免疫・代謝内科学教室　教授

1988 年 3 月　北海道大学医学部卒業
1992 年 3 月　北海道大学大学院医学研究科修了　医学博士
1994 年 7 月　英国ロンドン・セントトーマス病院レイン研究所ループスリサーチユニット　リサーチフェロー
1997 年 9 月　北海道大学医学部附属病院第二内科　医員
1998 年 6 月　北海道大学医学部第二内科　助手
1999 年 6 月　北海道大学医学部第二内科　講師
2010 年 4 月　北海道大学大学院医学研究科　免疫・代謝内科学分野　准教授
2012 年 1 月　北海道大学大学院医学研究科　免疫・代謝内科学分野　教授
2017 年 4 月　北海道大学大学院医学研究院　免疫・代謝内科学教室（改組）　教授
2022 年 4 月　北海道大学副学長、北海道大学病院長

代表的な日本リウマチ学会における活動
- 理事および北海道東北支部長 2015.4-2021.3
- 学会誌編集委員会 MR 編集委員会副委員長
- ガイドライン委員会 SLE ガイドライン小委員会委員長

代表的な他の学会活動など
- 日本臨床免疫学会（副理事長）、
- 日本内科学会（評議員）、
- 日本血栓止血学会（理事）
- 日本臨床リウマチ学会（理事）、
- 日本臨床分子医学会（理事）
- 厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）自己免疫疾患に関する調査研究班･全身性エリテマトーデス／原発性抗リン脂質抗体症候群分科会長

代表的な Editorial Board
- Modern Rheumatology ［副編集長］
- Immunological Medicine［編集長］
- Int J Rheum Dis ［副編集長］
- Lupus　（英国）

受賞歴
- 2020 年度日本リウマチ学会学会賞

業績目録

北海道大学　渥美達也

代表論文 12 編

1. Atsumi T, Khamashta MA, Haworth RS, Brooks G, Amengual O, Ichikawa K, Koike T, Hughes GRV. Arterial disease and thrombosis in the antiphospholipid syndrome: a pathogenic role for endothelin-1. Arthritis Rheum 41: 800-7, 1998.

2. Atsumi T, Ieko M, Bertolaccini ML, Ichikawa K, Tsutsumi A, Matsuura E, Koike T. Association of autoantibodies against the phosphatidylserine-prothrombin complex with manifestations of the antiphospholipid syndrome and with the presence of lupus anticoagulant. Arthritis Rheum 43: 1982-93, 2000

3. Yasuda S, Atsumi T, Ieko M, Matsuura E, Kobayashi K, Inagaki J, Kato H, Tanaka H, Yamakado M, Akino M, Saitou H, Amasaki Y, Jodo S, Amengual O, Koike T. Nicked beta2-glycoprotein I: A marker of cerebral infarct and a novel role in the negative feedback pathway of extrinsic fibrinolysis. Blood 103; 3766-72, 2004

4. Bohgaki T, Atsumi T, Koike T. Multiple Autoimmune Diseases after Autologous Stem-Cell Transplantation. N Engl J Med 357; 2734-36, 2007

5. Sakai Y, Atsumi T, Ieko M, Amengual O, Furukawa S, Furusaki A, Bohgaki M, Kataoka H, Horita T, Yasuda S, Koike T. The effects of phosphatidylserine dependent antiprothrombin antibody on thrombin generation. Arthritis Rheum 60: 2457-67, 2009

6. Oku K, Atsumi T, Bohgaki M, Kataoka H, Horita T, Yasuda S, Koike T. Complement activation in patients with primary antiphospholipid syndrome. Ann Rheum Dis 68； 1030-5, 2009

7. Atsumi T, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Yasuda S, Yamanishi Y, Kita Y, Matsubara T, Iwamoto M, Shoji T, Okada T, van der Hede D, Miyasaka N, Koike T. The first double-blind,

randomised, parallel-group certolizumab pegol study in methotrexate-naive early rheumatoid arthritis patients with poor prognostic factors, C-OPERA, shows inhibition of radiographic progression. Ann Rheum Dis 75: 75-83, 2016

8. Atsumi T, Tanaka Y, Matsubara T, Amano K, Ishiguro N, Sugiyama E, Yamaoka K, Westhovens R, Ching DWT, Messina OD, Burmester GR, Bartok B, Pechonkina A, Kondo A, Yin Z, Guo Y, Tasset C, Sundy JS, Takeuchi T. Efficacy and safety of filgotinib alone and in combination with methotrexate in Japanese patients with active rheumatoid arthritis and limited or no prior exposure to methotrexate: Subpopulation analyses of 24-week data of a global phase 3 study (FINCH 3). Mod Rheumatol 32:273-83, 2022

9. Ninagawa K, Kato M, Kikuchi Y, Sugimori H, Kono M, Fujieda Y, Tsujino I, Atsumi T. Predicting the response to pulmonary vasodilator therapy in systemic sclerosis with pulmonary hypertension by using quantitative chest CT. Mod Rheumatol (in press)

10. Karino K, Kono M, Takeyama S, Kudo Y, Kanda M, Abe N, Aso K, Fujieda Y, Kato M, Oku K, Amengual O, Atsumi T. Inhibitor of nuclear factor kappa-B kinase epsilon contributes to neuropsychiatric manifestations in lupus-prone mice through microglial activation. Arthritis Rheumatol (in press)

11. Abe N, Tarumi M, Fujieda Y, Takahashi N, Karino K, Uchida M, Kono M, Tanaka Y, Hasebe R, Kato M, Amengual O, Arinuma Y, Oku K, Sato W, Tha KK, Yamasaki M, Watanabe M, Atsumi T, Murakami M. Pathogenic neuropsychiatric effect of stress-induced microglial interleukin 12/23 axis in systemic lupus erythematosus. Ann Rheum Dis 81:1564-75, 2022

12. Kudo T, Nakazawa D, Watanabe-Kusunoki K, Kanda M, Shiratori-Aso S, Abe N, Nishio S, Koga JI, Iwasaki S, Tsuji T, Fukasawa Y, Yamasaki M, Watanabe M, Masuda S, Tomaru U, Murakami M, Aratani Y, Ishizu A, Atsumi T. Regulation of NETosis and Inflammation by Cyclophilin D in Myeloperoxidase-Positive Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis. Arthritis Rheumatol (in press)

代表講演 6 講

1. 渥美達也：シンポジウム 5『自己抗体・自己抗原の病因的意義』「抗プロトロンビン抗体と抗リン脂質抗体症候群」、第 46 回日本リウマチ学会学術集会、神戸、2002 年 4 月 22 日

2. Atsumi T. Antiphospholipid antibodies and thrombophilia in the antiphospholipid syndrome. The 9th International Congress on Systemic Lupus Erythematosus, Vancouver, 26 June 2010

3. 渥美達也. 教育講演「全身性エリテマトーデス・診断と治療の進歩」、第 111 回日本内科学会講演会、東京、2014 年 4 月 11 日

4. Atsumi T. Clinical practice and management of systemic lupus erythematosus in Japan. International Symposium: Emerging paradigm shift of SLE, 61st Japan College of Rheumatology, Fukuoka, 22 Apr 2017

5. 渥美達也. 特別講演「全身性エリテマトーデスの克服のために」、第 29 回日本小児リウマチ学会、札幌市、2019 年 10 月 4 日

6. 渥美達也. 教育研修講演 15「全身性エリテマトーデスの分類基準と診療ガイドライン」. 第 64 回日本リウマチ学会学術集会、兵庫県神戸市、2021 年 4 月 26 日

報告事項

2023年度「日本リウマチ学会 学会賞・奨励賞の選考」承認の件

2022年	12月	31日(土)	応募締切
2023年	2月	7日(火)	選考委員会開催
	4月	23日(日)	定時評議員会諮問
	4月	24日(月)	定時社員総会発表

2023年度の学会賞・奨励賞の選考結果は、次のとおりである。

【学会賞】（2名）

□ **岡 田 随 象**（東京大学大学院医学系研究科遺伝情報学　教授）

□ **川 人　　豊**（京都府立医科大学大学院医学研究科免疫内科学　病院教授）

【奨励賞】（3名）

□ **浅 島 弘 充**（筑波大学医学医療系膠原病リウマチアレルギー内科学　講師）

□ **神 谷 麻 理**（東京医科歯科大学病院膠原病・リウマチ内科　助教）

□ **中 野 正 博**（理化学研究所生命医科学研究センター
自己免疫疾患研究チーム/ヒト免疫遺伝研究チーム　特別研究員）

以　上